第２章　宇部市土地区画整理事業（柳ヶ瀬丸河内線）に伴う発掘調査

１　調査の経過

宇部市は昭和34年３月に小串土地区画整理事業施行区域として約170ヘクタールを都市計画決定し、同年７月に事業認可を取得した。その後、昭和36年に合意形成の得られた地区から順次工区分けを行い、事業を実施してきた。医学部構内は第２・８工区内に位置する。土地区画整理事業では、第２・６・８工区において都市計画道路（柳ヶ瀬丸河内線）の建設が計画され、第８工区では医学部構内の一部も建設予定地となった。このため、平成10年３月20日開催の埋蔵文化財資料館運営委員会にて、その取り扱いが協議された。埋蔵文化財資料館では、昭和58年度[1)]以降医学部構内遺跡の発掘調査を継続的に行ってきたが、既往の発掘調査から、予定地内においても埋蔵文化財が存在する可能性が高く、発掘調査の必要があるとの判断が下された。ただし、今回の工事主体は宇部市であることから、調査組織として宇部市教育長を団長とする宇部市域遺跡発掘調査団が結成され、資料館員の村田・田畑・金子が調査員として加わり、宇部市教育委員会と山口大学埋蔵文化財資料館が合同で発掘調査を実施することになった。現地調査は村田・金子が担当した。

今回の発掘調査の対象は平成10～11年度施工予定箇所で、従前は職員・外来駐車場として利用されていた。発掘調査は平成10年４月23～７月７日にＡトレンチ、Ｂトレンチ、Ｃトレンチを設定して実施した。調査面積はＡトレンチ101㎡、Ｂトレンチ94㎡、Ｃトレンチ58.1㎡、合計253.1㎡である。なお、調査区位置図以外の方位は磁北を示す。

医学部構内の境界線は、土地区画整理事業実施後に３回変更されている。同線建設前の境界線が構内旧境界線①である。

構内南西部では平成11年３月に第２工区で換地が行われ、平成14年６月には今回調査区を含む第８工区で換地が行われた。この際、第８工区では、隣接地で交換対象面積を確保できなかったため、現在の桃山グ

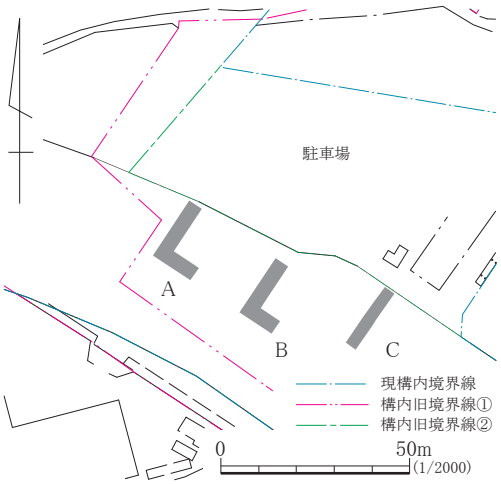


Fig.4　調査区位置図

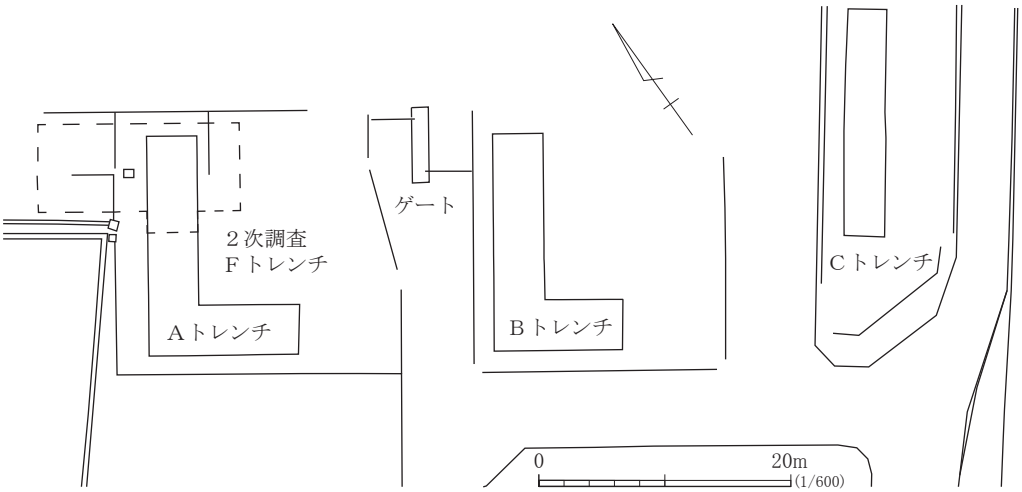


Fig.5　調査区設定位置図

ラウンドが交換地となった。以上の変更に伴う境界線は構内北部の構内旧境界線②と上記以外の現構内境界線が相当する。その後、構内旧境界線②は平成20年３月に変更され、以後の境界線が現構内境界線である。

２　層序・遺構

(1) Aトレンチ（Fig. 6・7, PL. 2～3）

Ａトレンチは調査対象地西端に設定したＬ字状のトレンチである。なお、北部は２次調査Ｆトレンチと重複する。層序は、第１層：表土・造成土（層厚約100㎝）、第２層：水田耕土（層厚10～22㎝）、第３層：水田床土Ⅰ（暗茶褐色土　層厚約２～６㎝）、第４層：水田床土Ⅱ（灰茶褐色土　層厚５～12㎝）、第５層：不明（水田床土か　層厚３～12㎝）、第６層：水田床土Ⅲ（黄茶褐色土　層厚２～７㎝）、第７～18層（層厚91㎝以上）：粘土・砂による堆積層である。

今回調査地は造成前に水田として利用されており、水田床土は少なくとも３層に細分される。第７～18層は水田化以前の堆積層である。調査区北部の現地表下約1. 3mで検出した第14層：暗灰黄青色粘砂（粗粘砂　層厚７～20㎝）からは土器がまとまって出土し、さらに調査区北側に広がることが確実視された。詳細は次章を参照されたい。

遺構はいずれも造成前の水田耕作に伴うものである。以下、混乱を避けるため、遺構名は調査時のものを使用する。北西壁土層断面では、第４層上面を検出面とする畝溝を確認した。また、調査区の中央部では同層上面で小溝１を検出した。小溝１は最大幅95㎝、最深部10㎝を測り、南東－北西方向である。埋土からメノウの原石が１点出土した。

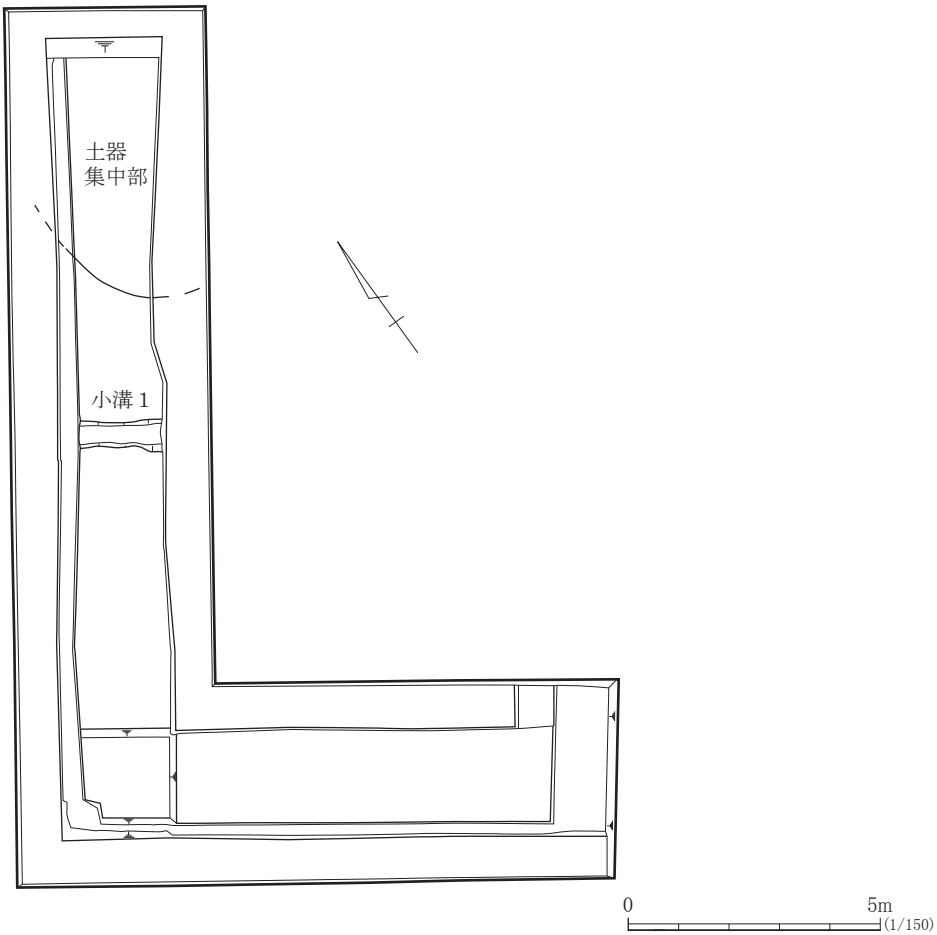


Fig.6　Aトレンチ平面図

(2) Bトレンチ（Fig.8 ～10, PL.4 ～6）

調査対象地のほぼ中央に設定したＬ字状のトレンチである。層序は、第１層：表土・造成土（層厚100 ～120㎝）、第２層：水田耕土（層厚８～20㎝）、第３層：不明（水田床土か　層厚10㎝）、第４層：水田床土Ⅰ（土色・土質記載なし　層厚４～13㎝）、第５層：水田床土（暗灰褐色土　床土変質土　層厚７㎝）、第６層：水田床土Ⅱ（暗黄茶褐色土　層厚３～11㎝）、第７層：不明（水田床土か　層厚９㎝）、第８層：水田床土Ⅲ（暗茶灰褐色土　層厚４～16㎝）、第９層：暗灰茶色土（層厚31㎝）、第10 ～22層（層厚54㎝以上）：粘土・砂による堆積層である。

遺構は第３・４・６層上面で、水田耕作に伴う用水路１、溝２条、畝溝群を検出した。

用水路（Fig.8 ～10, PL.6（3）（4））

調査区南東隅で検出した。 南西－北東方向である。 当初は幅約220㎝の素掘であったが

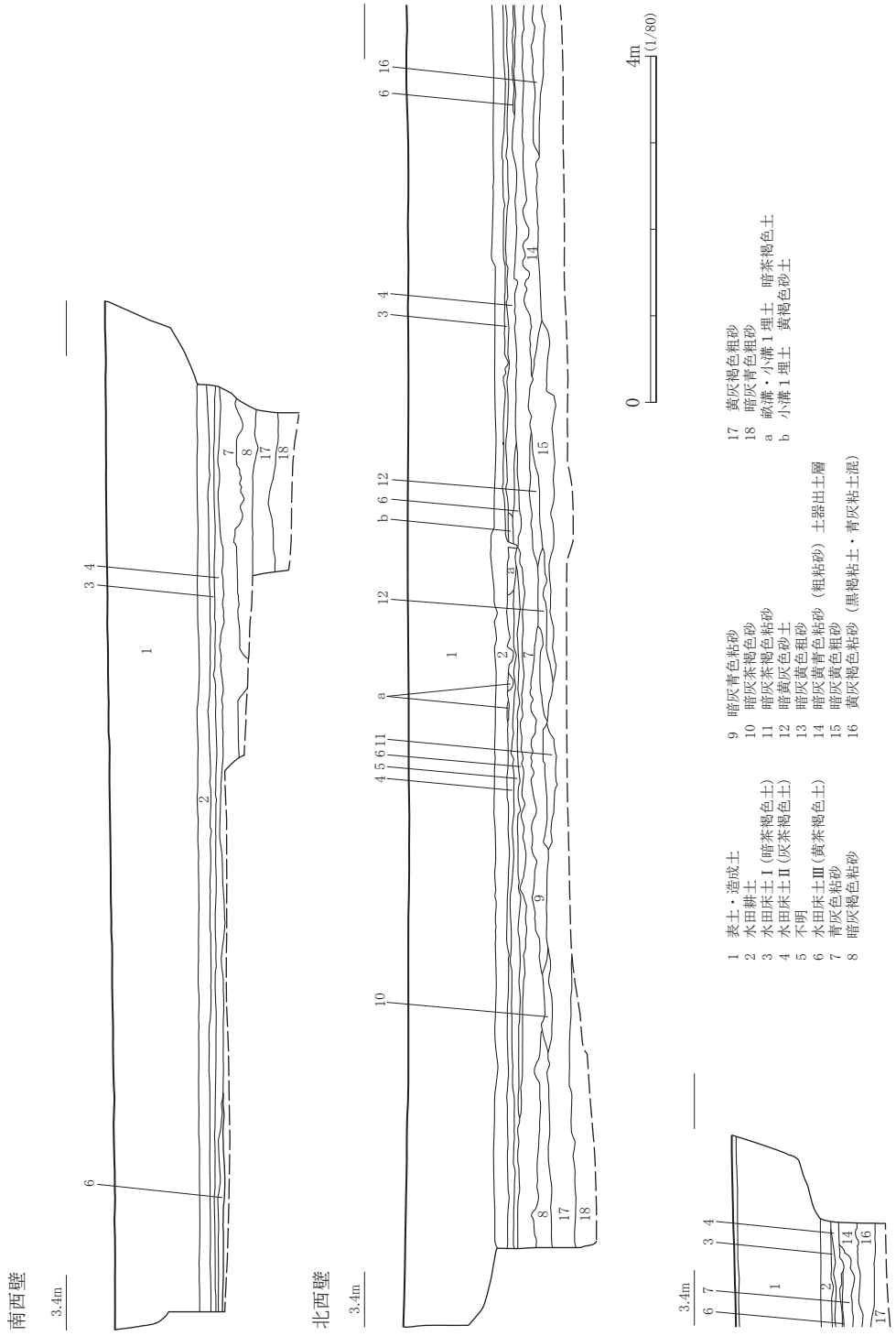


Fig.7　Ａトレンチ土層断面図

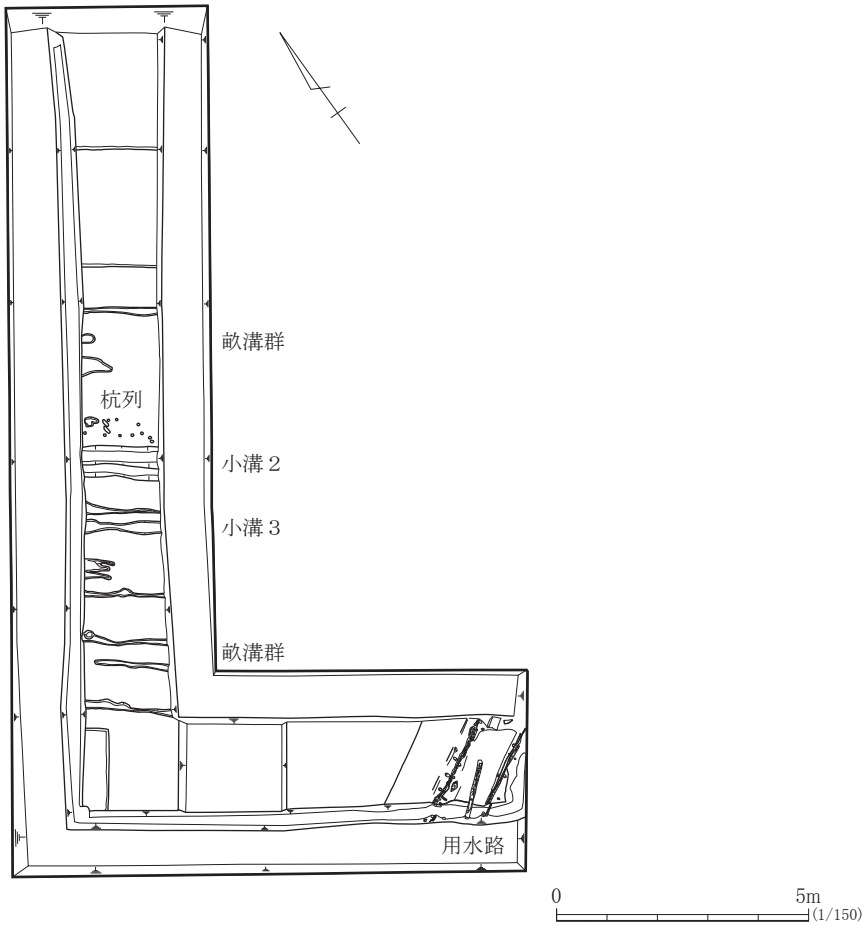
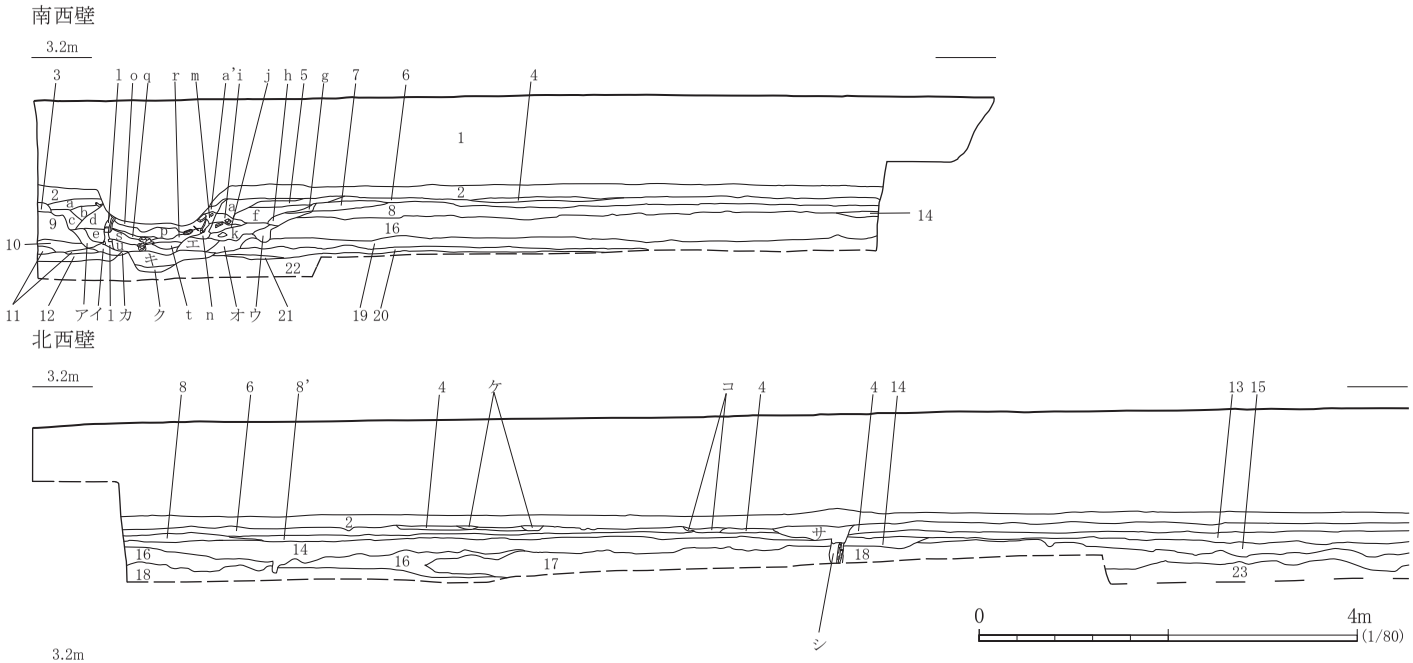


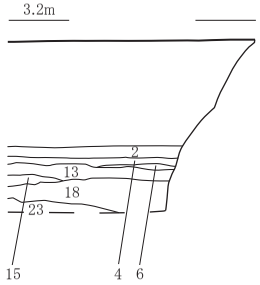
Fig.8　Bトレンチ平面図

(Fig. 9　用水路１)、 これを改修して木組みで補強した(Fig. 9　用水路２)。 木組みはU字状の溝を掘り、杭で板を挟んで構築した後に埋め戻し、裏込土としていた。木組みの内法幅は約80㎝で最深部が62㎝である(Fig.10)。また、木組みの構築と裏込めには部分的に礫を使用して補強していた。その後、最終的には幅140㎝、最深部38㎝の素掘となり、造成土で埋め戻されていた。出土遺物には中世の瓦質土器、近世～近代の土師質土器、瓦質土器、陶器、磁器、剥片、鉄製品、ガラス片等がある。

小溝２・３・畝溝群（Fig.8, PL.6（1）（2））

いずれも南東－北西方向である。小溝２は幅約63㎝、深さ約14㎝、小溝３は幅約25㎝、深さ約４㎝。埋土から須恵器片、近世～近代の陶磁器片が出土した。





1　表土・造成土
2　水田耕土
3　不明
4　水田床土Ⅰ
5　水田床土（暗灰褐色土 床土変色土）
6　水田床土Ⅱ（暗黄茶褐色土）
7　不明
8　水田床土Ⅲ（暗茶灰褐色土）
8’水田床土Ⅲ（8との違いは不明）
9　暗灰茶色土
10　暗灰色粘土
11 暗黄灰白色粗砂
12 暗灰白色粘砂
13 暗灰青黄色砂土
14 暗青灰色砂土
15 暗青灰色砂土（やや粘性強い）
16 暗灰青黄色粘土
17 暗灰青色砂
18 暗灰黄白色砂
19 黒灰褐色粘土
20 暗灰白色粗砂
21 不明
22 灰白色粗砂
23 暗灰青色粗砂
a　用水路２側板抜取埋土　暗灰褐色土
a’用水路２側板抜取埋土　黒褐色土
b　用水路２構築土　暗茶褐色土
c　用水路２構築土　暗黒褐色土
d　用水路２構築土　暗灰褐色土
e　用水路２構築土　暗灰色粘砂土
f　用水路２構築土　暗灰茶色土
g　用水路２構築土　暗黄茶灰色土（砂質強い）
h　用水路２構築土　暗黄茶灰色土
i　用水路２構築土　暗灰黄茶色土
j　用水路２構築土　暗黄茶色土
k　用水路２構築土　暗灰褐色土
l　木組部分変質土　暗灰色粘砂
m　木組部分変質土　暗灰黄色砂
n　木組部分変質土　暗灰色粘砂
o　用水路２埋土　黒褐色土
p　用水路２埋土　茶褐色砂
q　用水路２埋土　暗灰褐色粘砂（細砂）
r　用水路２埋土　暗灰茶褐色粘砂（細砂）
s　用水路２埋土　暗灰褐色砂
t　用水路２埋土　暗灰褐色粘砂
u　用水路２埋土　暗灰褐色粘砂
ア　用水路１溝埋土　暗灰色粘土
イ　用水路１溝埋土　暗灰黄色粘土
ウ　用水路１溝埋土　暗灰褐色土
エ　用水路１溝埋土　暗黄灰褐色粘砂
オ　用水路１溝埋土　暗灰褐色粘砂
カ　用水路１溝埋土　暗灰色粘砂（細砂）
キ　用水路１溝埋土　暗灰褐色粘砂
ク　用水路１溝埋土　黒褐色粘土
ケ　畝溝埋土　暗灰褐色土
コ　小溝３・畝溝埋土　暗灰黄色土
サ　小溝２埋土　暗灰砂色土
シ　小溝２埋土　暗青灰色粘シルト

Fig.9　Ｂトレンチ土層断面図

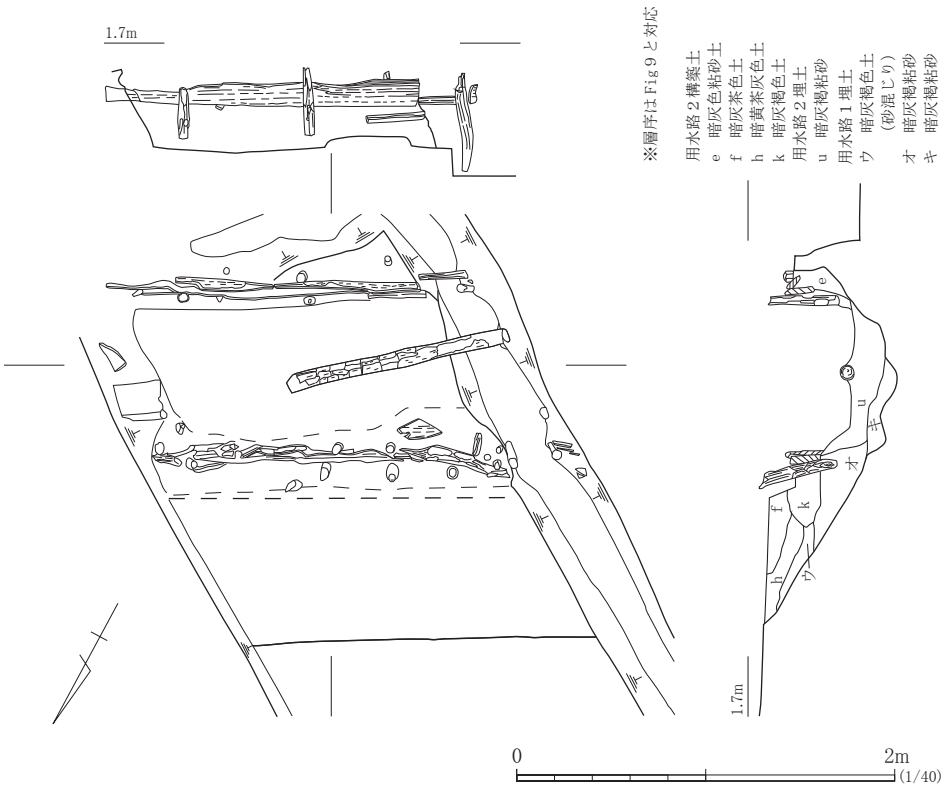


Fig.10 Bトレンチ用水路平面図・断面図

杭列（Fig.8, PL.6（1）（2））

小溝２の北側で検出され、同溝と平行する南東－北西方向の杭列である。小規模な柵もしくは垣根のような施設が想定される。

（3）Cトレンチ（Fig.11・12, PL. 7）

調査対象地の東部に設定したトレンチである。層序は、第１層：表土・造成土（層厚約102㎝）、第２層：水田耕土（層厚８～16㎝）、第３層：水田床土Ⅰ（黄褐色土　層厚約２～10㎝）、第４層：水田床土Ⅱ（暗灰褐色土　層厚３～12㎝）、第５層：水田床土Ⅲ（暗黄灰褐色土　層厚２～13㎝）、第６～９層（層厚78㎝以上）：粘土・砂による堆積層である。

遺構は溝１条、土坑１基を検出した。いずれも造成前の水田耕作に伴うものである。

小溝4（Fig.11, PL.7（2））

調査区北部の第５層上面で検出した。幅40㎝、深さ約18㎝で、南東－北西方向である。出土遺物はない。

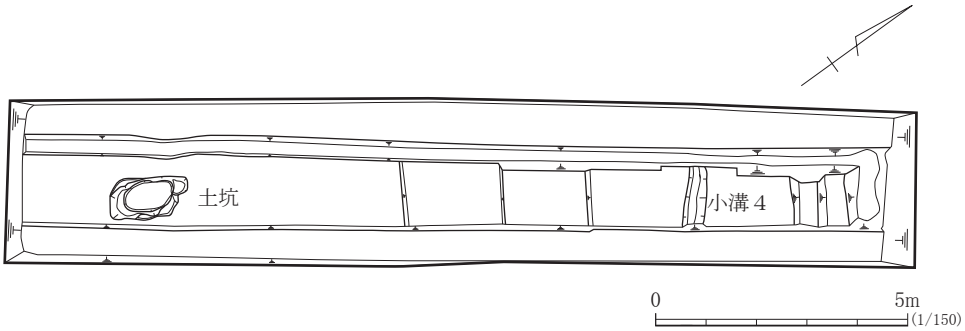


Fig.11　Cトレンチ平面図

土坑（Fig.11, PL.7（4））

調査区南部の第６層上面で検出した。平面形は長径160㎝、短径80㎝の楕円形を呈する。ほぼ垂直に掘り込まれており、深さは約76㎝である。底部面は砂層で調査時に大量の湧水があったことから井戸の可能性がある。埋土から近世～近代の瓦質土器、陶磁器片等が出土した。

３　遺物

以下で代表的な遺物を報告するが、水田耕土・床土、遺構から出土した近世以降の遺物については一部にとどめた。また、Ａトレンチ出土土器のうち、Ｆトレンチ出土土器と接合する土器は次章で報告する。

(1) 土器（Fig.13, PL.8 ～9（1））

１～８はＡトレンチ出土土器。１～３は第14層出土の縄文土器浅鉢片で同一個体の可能性が高い。後期か。１・２は口唇部・外面、３は外面にＲＬの縄文を施す。４は第14層出土の弥生土器甕胴部。外面にタテハケ、内面にナデを施す。後期か。５は弥生時代終末～古墳時代前期の甕。外面にタタキ（１条/ １～2.5㎜　10.５～11.5㎜/ ３条）、内面にナデを施す。６・７は第４～６層（床土下半部）出土で、６は足鍋口縁部、７は同脚部。８は肥前系染付碗（湯呑碗か）。19世紀前半。

９～15はＢトレンチ出土土器。９は用水路２下層（層名不明） 出土の近世土師質土器の甕口縁部。 佐野焼か。10は用水路２構築土出土の中世瓦質土器の擂鉢底部。11 ～13は用水路１出土。11は上野・高取系皿か。内外面に藁灰釉を施釉し、目跡が残る。18世紀後半以降。12は肥前の徳利（瓶）。18世紀。13は肥前の陶胎染付碗。18世紀前半。14は小溝（遺構名不明）の陶器瓶。肥前の陶器瓶で灰釉を施釉する。18世紀前半頃。15は肥前の染付湯呑碗。19世紀

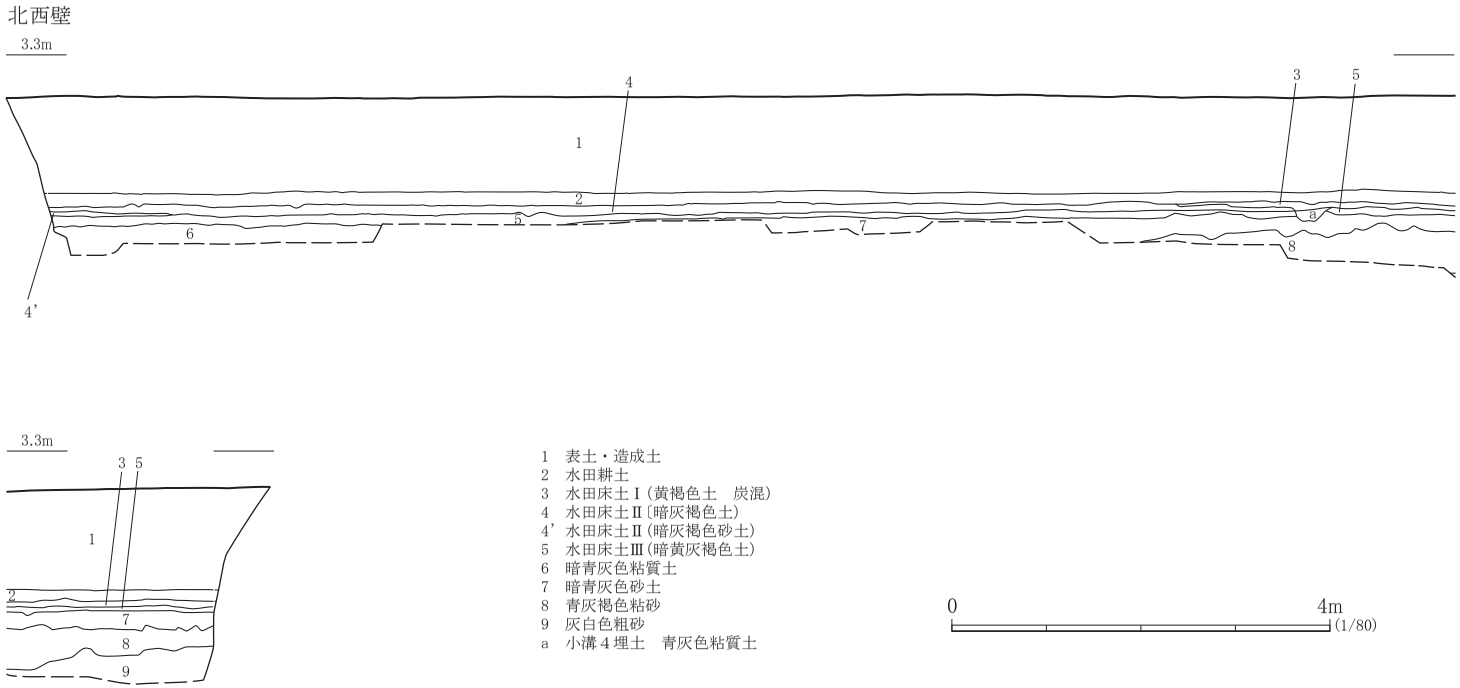


Fig.12　Cトレンチ土層断面図

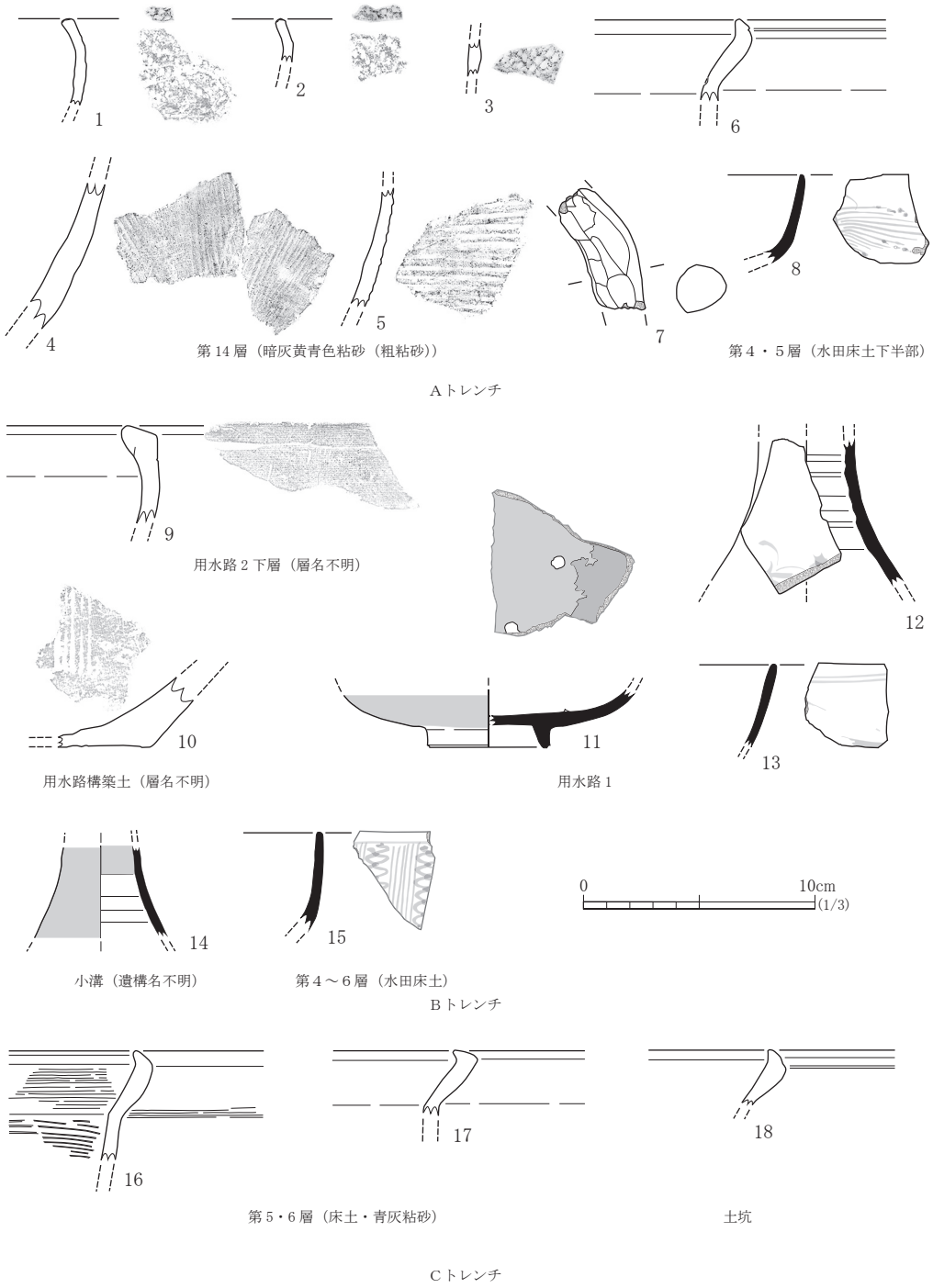


Fig.13 出土遺物実測図①（土器）

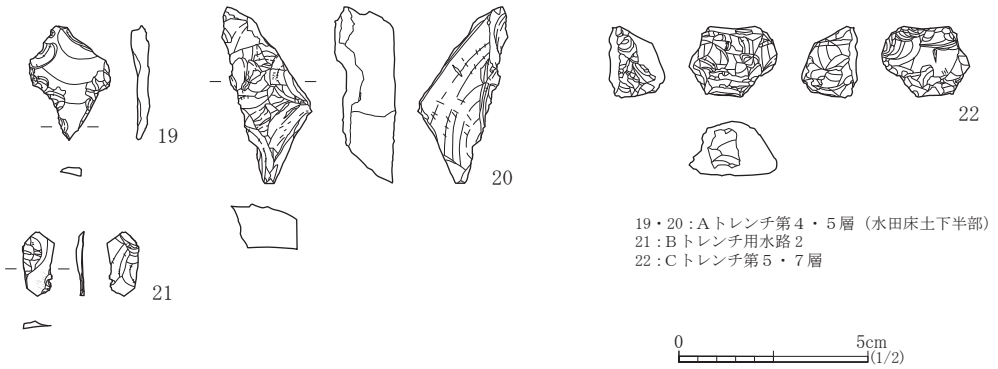


Fig.14　出土遺物実測図②（石器）

前半。16～18はCトレンチ出土土器。16･17は第５・６層出土の中世瓦質土器の足鍋口縁部。18は土坑出土の中世瓦質土器の足鍋口縁部。

（2）石器（Fig.14, PL. 9（2））

19はAトレンチ第４～６層（床土下半部）出土の石錐。20はAトレンチ第４～６層（床土下半部）出土の石核。21はBトレンチ用水路２出土の剥片。表面･裏面とも使用痕がある。22はCトレンチ第５・７層出土の石核。いずれも石質はメノウで時期は不明である。詳細はTab. 3を参照されたい。

4　小結

今回の調査で特筆されるのは、Aトレンチ第14層で弥生時代終末～古墳時代前期を中心とする土器集中部が確認されたことである。医学部構内遺跡において水田床土より下の堆積層から土器がまとまって出土することが初めて確認され、以後の調査の指針となった。平成10年度に引き続き隣接地の調査を行ったため、層序・遺構・遺物の評価については、次章でまとめて行いたい。

［注］

1）山口大学埋蔵文化財資料館「宇部（小串構内）医学部体育館新営に伴う試掘調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅲ』、1985年）

Tab.2　出土遺物観察表(土器)

法量(　)は復元値

遺物番号	出土地区・遺構	層　位	器　種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	色　調 ①外面②内面	胎　土	備　考
1	Aトレンチ	第14層	縄文土器　浅鉢	口縁部				①褐灰色 ②灰色	0.5～3mmの砂粒を多く含む	2・3と同一か
2	Aトレンチ	第14層	縄文土器　浅鉢	口縁部				①灰オリーブ色 ②灰黄色	0.5～1mmの砂粒を多く含む	1・3と同一か
3	Aトレンチ	第14層	縄文土器　浅鉢か	胴部				①黄灰色 ②灰黄色	0.5～5mmの砂粒を多く含む	1・2と同一か
4	Aトレンチ	第14層	弥生土器　甕	口縁部				①暗灰黄色 ②浅黄橙色	0.5～3mmの砂粒を多く含む	
5	Aトレンチ	第14層	弥生～土師器　甕	胴部				①灰黄色 ②浅黄色	0.5～2mmの砂粒を多く含む	
6	Aトレンチ	第4～6層(床土下半部)	瓦質土器　足鍋	口縁部				①②灰色	0.5～2mmの砂粒を多く含む	
7	Aトレンチ	第4～6層(床土下半部)	瓦質土器　足鍋	脚部				①②灰色	0.5～2mmの砂粒を多く含む	
8	Aトレンチ	第4～6層(床土下半部)	磁器　碗	口縁部				素地：灰白色 釉：透明	精良	肥前 湯呑碗か
9	Bトレンチ	用水路2下層	土師質土器　甕	口縁部				①②浅黄橙色	0.5～4mmの砂粒を多く含む	層名不明 佐野焼か
10	Bトレンチ	用水路2構築土	瓦質土器　擂鉢	底部				①橙色 ②にぶい赤褐色	0.5～4mmの砂粒を多く含む	層名不明
11	Bトレンチ	用水路1	陶器　皿	底部		(5.3)		素地：灰色 釉：灰白・オリーブ黒色	精良	上野・高取系か
12	Bトレンチ	用水路1	磁器　徳利（瓶）	頸～胴部				素地：灰白色 釉：明オリーブ灰色	精良	肥前
13	Bトレンチ	用水路1	磁器　碗	口縁部				素地：灰色 釉：透明	精良	肥前 陶胎染付碗
14	Bトレンチ	小溝（遺構名不明）	陶器　瓶	頸部				素地：にぶい橙色 釉：暗褐色	精良	肥前
15	Bトレンチ	第4～6層（床土）	磁器　碗	口縁部				素地：灰白色 釉：透明	精良	肥前 湯呑碗
16	Cトレンチ	第5・6層	瓦質土器　足鍋	口縁部				①②灰白色	0.5～2mmの砂粒を多く含む	
17	Cトレンチ	第5・6層	瓦質土器　足鍋	口縁部				①②灰色	0.5～1.5mmの砂粒を多く含む	
18	Cトレンチ	土坑	瓦質土器　足鍋	口縁部				①②灰色	0.5～2mmの砂粒を多く含む	

Tab.3　出土遺物観察表(石器)

遺物番号	出土地区・遺構	層　位	器　種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	石　質	備　考
19	Aトレンチ	第4～6層(床土下半部)	石錐	3.02	2.17	0.5	2.3	メノウ(玉髄)	
20	Aトレンチ	第4～6層(床土下半部)	石核	4.7	2.4	1.62	3.77	メノウ(玉髄)	
21	Bトレンチ	用水路2	剥片	1.72	0.85	0.22	0.33	メノウ(玉髄)	
22	Cトレンチ	第5・7層	石核	1.89	2.33	1.49	9.65	メノウ(玉髄)	